

品 種

これから普及が見込まれる、最新の先進成果を紹介します。

水稲 たちはるか



直播でも移植でも極多収、病気にも強い

収量が多く、直まき栽培にも向く業務用米品種です。食用の「ヒノヒカリ」などより20%収量が多く、いもち病や縞葉枯病にも強く、食味も「ヒノヒカリ」並に良好です。酒造掛米としても適性があり、岡山県などで普及が始まっています。

二条大麦 はるか二条



大幅に増収、病気にも強い二条大麦

「はるか二条」は、食用の二条大麦品種「ニシノホシ」よりも整粒の収量が30%も多く、穂発芽とオオムギ縞萎縮(しまいしゆく)病、うどんこ病にも強いのが特長です。「ニシノホシ」に代わる主力品種として九州で普及が始まっています。

サツマイモ こなみずき



ぷるぷる新食感のデンプンゲル特性をもつでん粉原料用

「こなみずき」のでん粉は、原料に混ぜて用いることで、和菓子(葛もち、わらびもち)、パン、練り製品などの食品の、形や柔らかさを長期間保持できるほか、でん粉ゲルのぷるぷるした食感を活かすことができ、サツマイモでん粉の食品への利用を拡げる素材です。

(写真提供: 日本澱粉工業(株))

米粉用米 ミズホチカラ



ふっくら米粉パンが焼ける新規需要向き多収米

米の主食用以外への用途拡大のための、西日本向き多収品種です。米粉にした時パンのふくらみがよいのが特長です。800kg/10aの玄米収量が期待でき、米粉用の他飼料米用にも利用できます。熊本県や福岡県で普及が進んでいます。

飼料用サトウキビ



南西諸島の飼料自給力アップに

肉用牛の子牛生産が盛んな南西諸島向けの新しい自給飼料作物として、再生力が高く、収量の多い専用のサトウキビ品種、「KRf093-1」(種子島以北地域向け)、「しまのうしえ」(奄美以南地域向け)を開発しました。

技 術

成果についてのお問合せは九州沖縄農業研究センター 広報普及室をお願いします(連絡先は裏表紙にあります)。

スズメノテッポウの効率的防除



除草剤が効かなくなった雑草を効率的に防除する

今まで使っていた除草剤が効かなくなった麦作の雑草「スズメノテッポウ」の発生量を、耕うん方法や播種方法の工夫と非選択性除草剤の組み合わせで大幅に減らすことができる技術を開発しました。さらに新しい除草剤を使うと効率的に防除ができます。

周年放牧で肉牛を飼う技術



100%自給飼料でヘルシーな牛肉を生産

暖かい九州向けに夏の牧草と冬の牧草を組み合わせ、トウモロコシサイレージなどを補うことで、1年を通じて放牧で肉牛を肥育する技術を開発しました。生産される牛肉は赤身中心のヘルシーな肉で、機能性の成分が多い特長もあります。

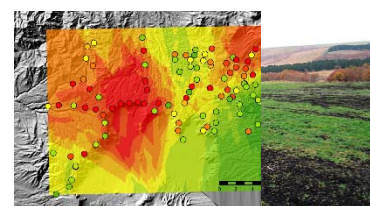
食品残渣を用いたTMR調製給与技術



地域の食品産業残渣を上手に使ったエコフィード

飼料イネのサイレージ(発酵粗飼料)と焼酎粕濃縮液等の食品残渣由来のエコフィードを組み合わせたTMRの調製と牛への給与技術を開発しました。地域の食品産業から出る飼料素材の有効活用が可能になります。

非アロフェン質の黒ボク土表層の分布マップ



火山地帯の土壌改善に役立つ黒ボク土の判別

久住高原と阿蘇外輪山の火山地帯で、強酸性が問題となる非アロフェン質の黒ボク土と通常の黒ボク土を土色とpHから簡易判別する技術を開発し、非アロフェン質の黒ボク土表層の分布マップを作成し、土壌改善に役立てられるようにしました。

トウモロコシ-冬飼料作物2年5作輪作体系

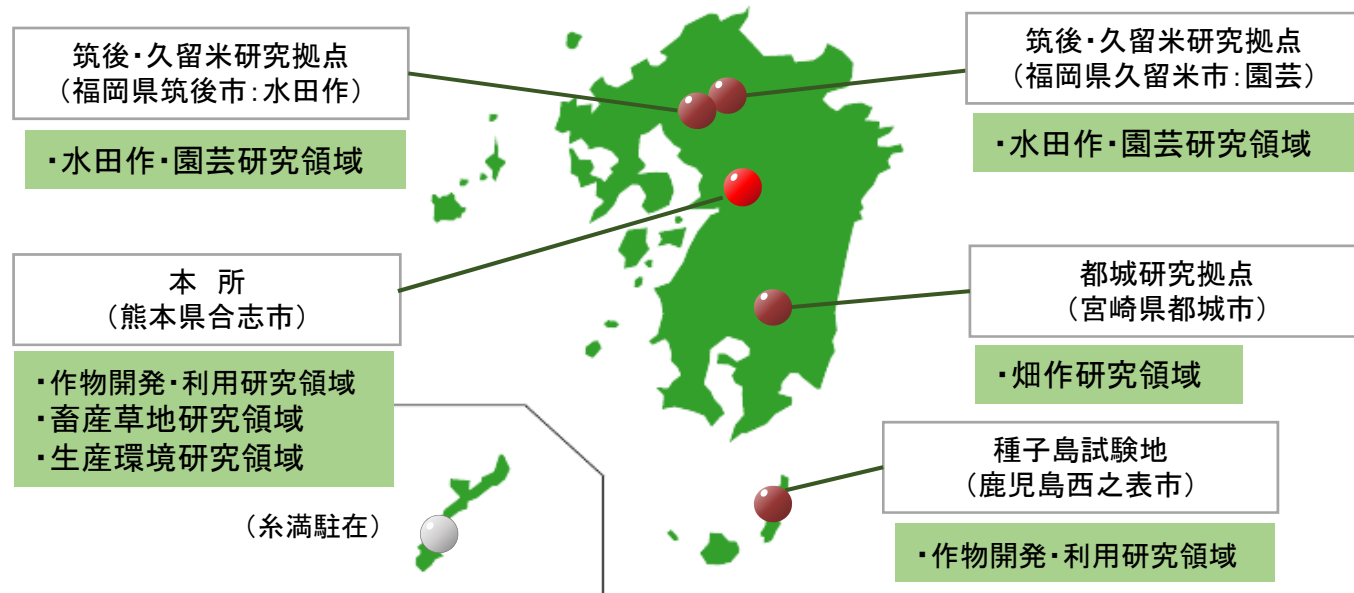


トウモロコシを中心に飼料作物を効率よく輪作

2年間にトウモロコシ二期作、飼料用麦・牧草等の冬作、晩播トウモロコシ、飼料用麦の晩夏作を行う九州向け多収輪作体系を開発しました。トウモロコシ-牧草の二毛作やトウモロコシ二期作体系と比べてTDN収量が高く、TDN当たりの生産費を抑えられます。

農研機構 九州沖縄農業研究センターとは？

九州・沖縄地域の自然や社会と調和した農業・農村の発展、消費ニーズに応じた高品質な作物生産や生産性向上を目指し、地域農業の生産力向上につながる研究を幅広く行っています。



■新品種の開発

稲・麦・大豆・サツマイモ・サトウキビ・イチゴなど、高品質で九州に適した新品種を開発を行っています。また、それらの機能性の解明も行っています。



■持続型農業技術の開発

温暖化による気候変動に強い農業、畜産の技術や病害虫の発生予測と防除技術、環境負荷の少ない農業技術を開発しています。



■水田・畑輪作体系の開発

九州の条件にあった水田、畑の輪作作物の組合せや、効率の良い作業技術を開発し、地域農業の生産性向上をめざす研究を行っています。



■地域資源の活用技術開発

放牧や食品残渣を飼料に利用した畜産、飼料・バイオマス用作物の開発や畜産廃棄物等の有機物資源の利用技術の開発を行っています。



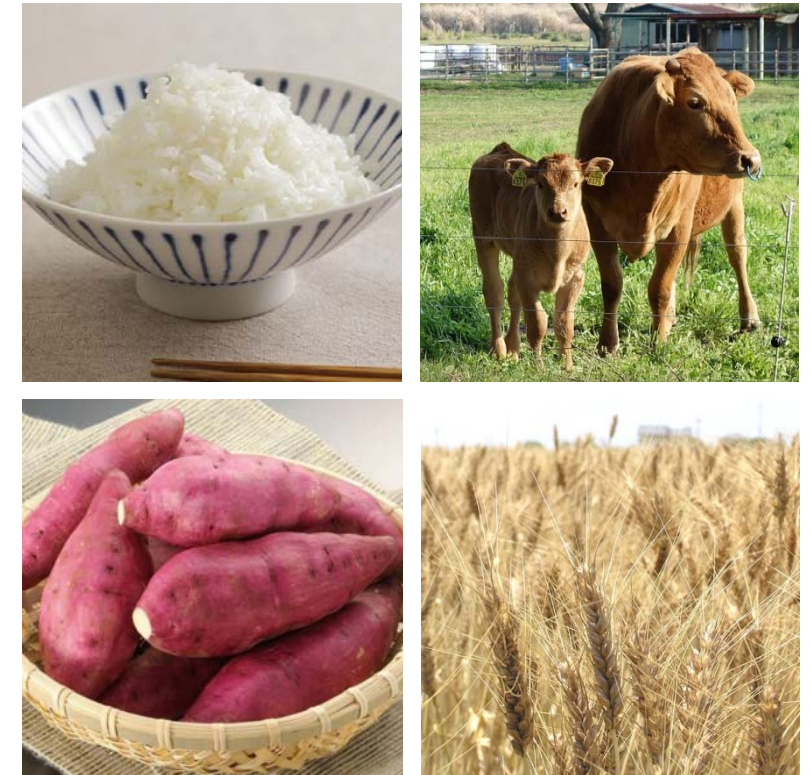
問合せ先:九州沖縄農業研究センター広報普及室
所在地:〒861-1192 熊本県合志市須屋2421
TEL:096-242-7682 FAX:096-242-7543

メール:q_info@ml.affrc.go.jp
ウェブ:www.naro.affrc.go.jp/karc

九州沖縄農研 | 検索

(2014.03 作成)

九州・沖縄農業の明日をひらく イチ押し成果ベスト10 シーズ技術編 (普及が期待される最新成果)



九州沖縄農業研究センター

NARO KARC